



# 日本リンホフクラブ会報

Japan Linhof Club (JLC)

VOL.4

2010年3月25日発行

〒113-0033 東京都文京区本郷3-39-14 株式会社ワイズクリエイイト内

TEL 03-5689-2776 FAX 03-5689-2786

日本リンホフクラブ会報制作委員会(川太、北島、米澤、酒巻、事務局)

<http://www.linhof-club.com> [info@linhof-club.com](mailto:info@linhof-club.com)

## 吉村和敏プロに聞く

吉村プロは、20年前に写真集「プリンス・エドワード島」を出してから2009年の「PASTORAL」まで、カナダや西欧各国の“奇麗”で“美しい”田園風景を20冊近くの写真集に纏められ数多くのファンの心を捉えています。そ



して、昨年「Sense of Japan」という写真集を出されました。叙情的な海外作品とは180度違う、これ迄にはない視点(“雪”、“軽トラック”、“黄色”、

“祈り”という四つのセンス=テーマ)で見慣れた日本の風景を撮っています。

**Q1. 「Sense of Japan」は、切り口が衝撃的でした。この作品が生まれた背景、狙いをお聞かせ下さい。**

プロになって20年。“奇麗”写真ではない自分だけの独自の視点をずっと意識しており、10年ほど前から大判カメラで



しっかり撮りたいと思っていた。でもなかなかきっかけが無く直ぐには踏み込めなかったのですが、3年前に決意して撮り始めた。日本の風景の中で見慣れたものは何かと自問を繰り返した中から四つのセンスが出てきた。

**Q2. 被写体として選ばれたものには廃船や廃車があります。また人物が殆どおりません。これは、偶然でしょうかそれとも探し求めた自然景観なのでしょうか？**

海外でも廃船、廃車は撮っています。海外では6×4.5で撮っているのですが、35ミリで撮った様に見える。4×5で撮るのはやはり違う。海外で撮っている頃から頭の中で日本でも、という考えがあった。1日に400～500kmは走り回って徹底的に求める風景を探します。ですの

で、1日で撮れるのは精々1～2カットに過ぎません。

**Q3. 大判カメラに拘り、フィルムもカラーネガを使用されています。その理由は何でしょう？**

デジタルで撮った写真は、誰が撮ってもどれも同じ様に見える。それが嫌。また、最近の若い写真家が撮るフワッとした写真も好きじゃない。それで必然的に大判となり、自宅に眠っていたエポニー(45S)を使うようになった。日本の風景を中判で撮ろうとは全く思いません。4×5以上でやる。8×10で日本の風景を撮る事もやってみようと思っている。日本の風景を撮り始めるに当たり使用するフィルムを色々テストしてみた。ベルビアでは印刷した時固い。日本各地にある色々な色を見せるには、黄色とか青色とか一つの色が立ってくるネガカラーが最適と分った。

**Q4. 4×5での撮影は面白いですか？**

実におもしろい。大判は手回ひまかかるけれど、その間に色々考える。それが大



事。海外で常用している中判 (6x4.5 / 6x7) とは違う。中判は 35 ミリの延長線上にあるが大判は違う世界と言える。敢えて言えば 4x5 はアート。デジタルは作品にするのが難しい。それにデジタルの色転びがどうも好きになれない。また印刷とのマッチングに神経を使います。然し 4x5 では喰っていけない。クライアントはデジタルでの写真を求めてくるので、PENTAX から中判デジタルが登場すれば、海外での撮影は全てデジタルに切り替える事になるかもしれません。

#### Q5. 海外作品と「Sense of Japan」とどちらが本当の吉村プロですか？

どちらも本領を發揮していますが、アートを意識しているのは「Sense of Japan」です。

#### Q6. そうすると「Sense of Japan」の第二弾が期待できる！？

## 大判カメラ大好き

江口英信

カメラと言うものに出会ったのは 60 年近くも前の事。高校の同級生が持っているカメラで撮っては街の写真屋へ我が物顔で出入りし、当時ミノルタから新発売された 35mm カメラ「ミノルタ・A」をその店で買い込み、勝手に暗室へ入り込みモノクロフィルム現像をやっていたのが始まりである。

仕事勤めを始めてからは旅行した時にスナップを撮る程度で有ったが、20 数年前たまたま仕事の関係で知りあった取引先の写真好きの方に出会ったのが大判カメラに足を踏み込むきっかけになってしまった。その方は何種類かのカメラを持っていて、一緒に出かけては中判カメラを借りて撮っていたのだが、彼が大判カメラを買い替えるとかで持っている木製の 4x5 を私にくれたのだが、何年かは机の中に入ったままだった。

何年か経って会社勤めも定年に近くなった時、何となく綺麗な絵ハガキのような景色を撮ってみたいなあ〜と思い付き、そういえば貰ったカメラで撮ると良いかもしれ

自分の故郷、信州を現在大判 (4x5) で撮っています。カラーネガとモノクロームのどちらが相応しいかテスト中です。

#### Q7. 最後に海外で撮影するに当たって気をつけねばならない点をアドバイスをお願いします。

カメラを首からぶら下げて旅行者風に撮る事です。プロ風にやると直ぐに警官がやって来て「何をやってるんだ？」と言われる。また、飛行場での X 線検査は手荷物の中にフィルムも入れて通す事。貨物室に預ける大型カバンには入れない事。強力な X 線でフィルムが駄目になる。手荷物とすれば ISO100 位までは、これ迄カブった事が無い。100% OK とも言えないが、X 線に通さず「HAND INSPECTION 希望」とは言わない方がいい。拘束される恐れがあります。

吉村和敏プロのホームページ/ブログ  
<http://www.kaz-yoshimura.com>  
<http://kaz-yoshimura.cocolog-nifty.com/blog/>

ないと机の中から引っ張り出して、三脚に乗せてみたもののどうやって良いかわからなかった。そこで本屋へ駆け込み大判カメラの使い方の本を買い込み、そして大判塾の有ることを知りその門を叩き指導をうけた。その後は海外への出張が増えてきたのでどうしても大判を持って行きたくて、何とか手持ちで撮れるカメラは無いかと思っていたところ、リンホフで距離計連動のカメラが有ることを知り、小遣いをはたいて仕入れて地球の裏側のブラジルやお隣の国の中国やネパールその他の国へ持っていた。



大判仲間との交流も増えて、4x5 だけでは物足らず 5x7 から 8x10 までも集めてしまった、ここ数年は 4x5 だけでなく 5x7 の出番も多く 8x10 も持ち歩いては撮ってはいるが中々思うようなのが撮れなくて、い

為には、会員皆さんから多くの意見を集め、討議する必要があります。是非ご出席をお願いします。  
日時： 4月17日(土) 午前10時~12時  
場所： 文京区 湯島会館2階  
尚、この日の午後1時より近藤辰郎先生による会

インタビュー (川太) 所感  
富士フィルムフォトサロンでの写真展「Sense of Japan」は、私に極めて鮮烈な印象を与えてくれました。“奇麗”写真ではない「Sense of Japan」がアートの自分と言われた吉村プロはまだ40代。インタビューで吉村プロの考え方、思いを十分に引き出せたかどうか。皆さん是非この写真集を手に取りじっくり見て下さい。

また、「これからは大判カメラがブームになるのでは」、「アマチュアもデジタルに飽き足らなくなって銀塩写真に戻ってくるのでは」とのお話も。リンホフクラブにとって心強い限りです。

- 吉村和敏プロ作品集 (一部抜粋 全て入手可能)  
\*「プリンス・エドワード島」 ~世界一美しい島の物語~ 講談社 ¥3780  
\*「ローレンシャンの秋」 ~カナダ・ケベックの森が燃える時~ アップフロントブックス ¥2730  
\*「BLUE MOMENT」 小学館 ¥3150  
\*「PASTORAL」 日本カメラ社 ¥3150  
\*「Sense of Japan」 ノストロ・ポスコ ¥3150

まだに己の腕の未熟さをしみじみ感じているところである。

しかし、大判カメラの良いところはシャッターを押すまでのすべての操作 (カメラの組み立て・構造・レンズの選択・露出、その他) に全神経を込めて、ひたすら夢中になってやるというところに醍醐味と言うか、楽しみ (傑作を生み出す苦しみ?) が有るところだと思ふ。

撮影場所に着いてから食事をするのも忘れて、ただひたすら撮影に夢中になり一通り撮影が終わってホッとすると同時に猛烈な空腹に襲われ、更に加えてどっと疲れを感じるが、これがまたちょっとした快感でもある。

帰ってからは現像の仕上げを楽しみにしていても、仕上がりを見て何時も反省しきりと言った事が多く、次回こそは・・・という気にさせるのであるから不思議なものである。(所沢市在住)

員作品の講評会があります。  
一人3~5点の作品を電子データ (ポジ / ネガをスキャンして DVD、CF、USB メモリー等に記録) としてご持参下さい。同時にポジ / ネガも忘れずにお持ち下さい。

## 山々の香を撮り続けています

宇田川哲夫



小さいころから高い所が大好きでした。長じて山ばかりとは言わず、足を運んだどんな街でも時間をみても一番高いところに行きました。城山があればそこに登り、丘へのロープウェイがあればそれに乗り、教会の尖塔があればそこに登って町を見渡す、そんな私です。街の香りも恋しいけれど、山の空気はもっと魅力的。生意気盛りのころは仲間と長尺のトライXを切り分けて街の写真も撮ったけれどどうも私のキャラではなかったようで社会に出てからは登山と山岳・風景写真にどんどん近付いてきました。35mmの一眼レフから始まり質感を求めて 6x4.5、次は 6x7、そして 4x5 にたどり着きました。レンジファインダーカメラや一眼レフの正立の空中像ではない 4x5 ピントグラス上の倒立の実像は目の撮影対象をいったん相対化して写真にする心構えを与えてくれるような気がします。少年時代にピンホールカメラをつくって磨りガラスの上の逆さまの像を見た時の感動が心に残っているのかもしれませんが。

シリコン頭脳の便利なびっくり箱が全盛の時代ですが精緻なメカニズムと心のこもった精密機械には人を惚れ惚れさせる魅

力があります。リンホフカメラの仕上げの美しさ、ガタなく軽すぎず重すぎず、動く摺動部とあまって写真を撮る道具として手になじみます。

とはいっても本来は年とともに機材を軽くしていきたい登山にとって 4x5 は鬼門かもしれません。でも肩に食い込むザックと額を流れる汗に、欲張って持ってきたレンズに後悔しても、凍てつく冬の朝、カメラのセッティングに慌ててつい手袋をはずして指先がべたりと金属に吸いついて焦ってみても輝く朝の山や、晴れゆく山の表情を見れば報われるというものです。

ここ何年かは南アルプスの最南端の 3 km 峰、深田久弥の日本百名山にも挙げられている「聖岳」とそこを源流にして天竜川

にそそぐ遠山川流域に足を運んでいます。「聖」の世俗を廃した修行僧の清貧さと気高さにも比せられるこの山に魅せられて通い始めました。いわゆるアルペンの鋭峰ではありませんがどっしりした落ち着きある山体です。「聖」の名が示すが如く近づき

がたくも懐に飛び込めば厳しくも暖かく包んでくれる山です。山々や春の花々や樹々そして好奇心たっぷりに見守ってくれるカモシカ君たちからも力を貰いながら撮り続けています。シャッターを切るのは一瞬ですが、その一瞬の光景だけでなく空気、香りが感じられるような写真を撮っていきたく念じております。(さいたま市在住)



### 第4回勉強会報告

今回の勉強会は、コメント社 (佐々木さん、橋本さん) による SYNCHRON モノブロックストロボの紹介と生花を使ったの実写でした。

このストロボは黒色の精悍なスタイルで小型化されている。然も、出力は 400W~6W (と 1/6 ステップで調光可) で光の拡散性が高く、且つモデリングランプの色が従来の黄色から白色に変更されている。実写は、まず黒の別荘を敷いてコーナー部を丸くす



るなど慎重に始めていく。ストロボの位置を被写体の正面上方、サイド、斜め後方、真上からと変えていく事で光の当り具合、写り具合を確認して立体感が出る位置を探す。レフ板も使用して明暗差を調整。ピントのコントロールと絞りの関係を考慮してから露出測定。そして (今回はインスタントフィルムで) 撮影。出来は如何でしたか?

午後は、石橋睦美プロによる出席者一人一人の作品講評。先生からは、構図とピントはリンクしている、ワイドレンズ使用時には周辺のピントを f16 に絞って確認した後、f22 乃至 f32 にして撮影するように、とのアドバイス。また個々人の作品に対して、春の写真は少し明るめにする春の息吹が感じられる、花や紅葉は写真の中では添え物として画面構成せよ、日の出から 30 分位経った時の光が一番いいので狙うべ



し、プリントする場合は 1/3 程度アンダー目にして撮りプリントする際少々明るめに、と指示する事等の指摘が。最後に総評として、ストレートに撮り過ぎていた印象なので個性を發揮すべし、気象条件狙いの写真ばかりでは面白くない、森の写真を撮るには森の節理を勉強すれば自ずと被写体が見えてくる、そして自分なりのテーマを追いかけるといい、とのお話でした。今回も中身の濃い充実した一日となりました。

## 新年会報告

本年最初の勉強会の後に、メンバー34名とゲストのプロ写真家3名が出席した当クラブ初の新年会が開催されました。

平間理事の司会の下、清水会長の挨拶をスタートに大山謙一郎プロの来賓挨拶、石橋睦美プロの乾杯と挨拶、知新 温プロの挨拶。東京、千葉や神奈川の人だけでなく、遠くは広島、京都、福島、茨城、山梨

栃木からも駆けつけてくれ、あちらこちらで初めて顔を合わせる人との交流が見られました。これぞ全国展開の当クラブの醍醐味ではないでしょうか。

また、勉強会の最後に出席者の自己紹介を行い、遠路はるばるお越し戴いた方々の座談会も催しました(時間が少々足りなかった感がありましたが、内容は会報5号に掲載の予定です)。



## 第5回勉強会報告

5回目となる本年最初の勉強会は、富士フィルムイメージック クリエイト事業部の3名の方(本間さん、高橋さん、根本さん)による「プロラボの現像とプリント」の話と清水会長による「回転アオリは「ピン・ピン・チョコビ・チョコビ」で」でした。

### その1 プロラボの現像とプリント

「疑似ラボを見学する」様な説明と各種現像されたフィルムとプリントの違いを目で確認するというものでした。

#### ① リバーサル現像

4x5 は四隅を止めたハンガーに吊るす。-1~+3の範囲内での増減感は OK(+3 を越えると黒色が抜けてくる)。液温管理基準は±0.03°C、自動調液装置、PH メーターでバラツキをチェック、N2 吹込みによる液の攪拌、暗室内で赤外線監視鏡を使用(緑色に

見える状態で作業)。また、暗室内を監視するモニターも有り。

#### ② リバーサルプリント(手焼き)

1台の引伸機(富士フィルム製)で35ミリ~5x7まで引伸ばしが可能(3本のレンズターレット付き)、ネガキャリアは両面ガラス、色は(C.M.Y) フィルター 2.5~5 番で判定。フィルム現像もプリントもいづれも 40°近い高温で処理等々プロラボの裏側の凄い世界を披露してくれました。

#### ③ リバーサルプリント及びフィルムの違い

印画紙の違い(グロッシー=光沢、マット=半光沢、クリスタル=超光沢)、プリント濃度の違い、焼き込み・覆い焼き、C.M.Y.B フィルターを掛けた場合のプリントの違い、トリミングの有無、水平出し・ストレートの違い。

ペルビア3兄弟で強調される色は、RVP50=M、RVPF・RVP100=G。

これを承知していれば対象によって選ぶフィルムを変えられます。

また、ノーマル現像と増減感した場合の出来具合の違いを確認。

#### ④ プリント依頼法

見本となるプリント(トリミングの有無・色)を添付するのがベスト。

「明るく・暗く」「輝くように」「原板に忠実に」等の定性的表現でも大丈夫、との事。



### その2 回転アオリは「ピン・ピン・チョコビ・チョコビ」で

会報3号に別刷りでメンバーの皆さんにお送りした同名のレクチャー。イラストレーターで作成された画と作例写真を用いながらの懇切丁寧な説明でした。アオリに不安な人も今回の説明で更に理解が進んだ事でしょう。

#### ① 近景点最適位置を見つけてピント合わせするが一番簡単。

#0・#1 シャッター → 中央グリッドラインから上方レンズ焦点距離の 1/10 でピントを合わせる。

#3 シャッター → 更に7ミリ程上で。

#### ② バック部でのアオリ

遠景点のピント合わせから始める。

#### ③ 複合アオリ

フロント部でのティルト+スイングが簡単。

#### ④ 等倍撮影時のアオリ

等倍接写の場合、画像距離(レンズの主点とフィルム間の距離、概ね蛇腹の長さ)は使用レンズ焦点距離の2倍です。従って、レンズ側でアオリ場合の近景点の最適位置は、ピントガラス中央のグリッドラインから通常の2倍(概してアオリ量が大きくなる

ので2倍強)、つまり焦点距離の 2/10 ほど近景寄りとなります。

尚、等倍撮影は特異な条件下にあり、フォーカシングは蛇腹の伸縮ではなく、カメラ全体を前・後進させて行います。

勉強会に参加出来ず、まだアオリに不安がある方は是非もう一度「回転アオリは「ピン・ピン・チョコビ・チョコビ」で」をお読み戴きテストを実践して下さい。「目から鱗」になる事間違いなしです。

## 例会・撮影会

※会場について

公共会議室利用のため、開催日の一ヶ月前に決定致します。ホームページ等でご確認ください。

開催日	参加費	技術勉強会 10:00~	作品講評・講師 13:00~	備考
4月17日(土)	¥3,000	第二回総会	近藤 辰郎	会場:湯島会館
7月24日(土)	¥3,000	未定	大山謙一郎	
10月23日(土)	¥3,000	未定	未定	

❖ 9月18、19日(土、日)『梅池撮影会』 詳細は後日

❖ 新企画! 6月26日(土)・9月4日(土)・12月4日(土)『新宿御苑大判カメラ基礎勉強会』《無料》11:00~

## お申込方法、ご注意

- 参加希望のイベントを選択してください。
- 日本リンホクラブ事務局に電話、ファックス、メール等で参加希望の旨をご連絡ください。
- イベント当日は時間厳守でご参加ください。なお、勉強会・講習会参加費は当日徴収致します。撮影会参加費は指定期日迄にご納入ください。
- 勉強会・講習会のキャンセル可能日は3日前までとし、以降は欠席の場合でも後日参加費を徴収させていただきます。
- 撮影会のキャンセルにつきましては、日数により取り消し料が掛かります。催行日 20~8 日前 30%、7~2 日前 40%、前日 50%、当日、無連絡、旅行開始後は 100%となります。



《編集後記》富士フィルム社からのショックなニュースです。銀塩写真愛好家にとって無くてはならないフィルムの一部生産中止と整理統合です。昨年4月に GF670(6x6/6x7)が発売され、この3月末には新たにシルバークロムタイプも発売されるというのに、プロ 160NC(ネガカラー)及びプレス

ト 400(モノクローム)の120サイズが生産中止。RVP50等リバーサルの4x5シートの50枚入りが無くなり、10枚入りのみに(QLの20枚入りは存続)。またタングステンタイプのシートフィルムは全て無くなる。そして、子会社プロラボクリエイトの新橋営業所が閉鎖され、フィルム現像が2~3時間で出

来る営業所が都内では新宿のみになってしまった。銀塩写真を取り巻く状況はこれからも厳しさが続くでしょうが、私達にできる一番簡単な事は、たくさん撮ってフィルムを消費することです。さあカメラを担いで街に、野に、山に、森に、海に出かけてシャッターを切りましょう!(川太)